

平成25年度 ケア付き青森ねぶた じょっぱい隊 ボランティア活動報告



青森県立保健大学地域連携・国際センター
地域連携科委員会ケア付きねぶた部会

目 次

ケア付き青森ねぶたの紹介、実行委員会との共催	P 1
ボランティア活動 準備編	P 3
ボランティア活動 当日編	P 7
ボランティア活動 後編	P 1 1
学生の思い・学び	P 1 4
ケア付きねぶた部会活動概要	P 3 3

本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動に積極的に取り組んで6年目となります。今年は地域連携科委員会に、教員6名で構成されるケア付きねぶた部会が発足しました。チームで取り組んだ平成25年度のボランティア活動を報告いたします。

ケア付き青森ねぶたの紹介

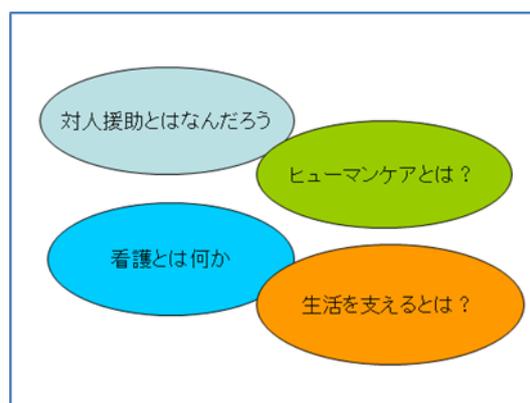
1年生が入学すると、4月に開講される4学科合同授業「健康科学概論」の中で、ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動について紹介します。これから専門職としての知識や技能を学んでいく学生にとって、この活動を知ることがヒューマンケアを模索する上での原動力になると考えているからです。そして、ボランティア活動の実体験を通して、人として専門職として成長する貴重な機会につながることを願い、ケア付き青森ねぶたの活動を紹介しています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動を積極的に支援していることを、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持つ学生が多いようです。

ヒューマンケアを提供できる人材育成

ケアつきねぶたへのボランティア活動を通して、専門職としての知識や技術のみではなく、人間とは何かということに思いを巡らせ、病気や障害を持つ人々の心を感じ取り、人に対して思いやりと温かさを持って接することができるようになって欲しい。感動を味わい感性を磨くことで自分を育てて欲しい、と願っています。

学長 リボウイツ・よし子
平成21年12月1日 公立大学協会60周年 記念シンポジウム
「障害者ねぶた」へのボランティア活動を通しての教育 より



ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊 実行委員会との共催

ケア付き青森ねぶたは平成8年から始まり、全国から参加者を募り年齢や障害の枠を超え青森ねぶたに車いすのまま参加できるよう保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行され、これまで毎年本学教員10数名及び相当数の学生がボランティア参加してきています。保健・医療・福祉の専門職を志す本学の学生にとって、ケア付き青森ねぶたに参加し障害者や高齢者との交流及び介助を行うことは、貴重な体験であり極めて学習の意義があります。

このため、本学では平成20年度から大学組織として協力しています。地域連携科事業としてボランティア養成講座を開催し、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅰの単位認定科目とするとともに、学生がより積極的にボランティア活動を行うことができる環境を整えています。

今年度からは、学部協力のもと、ボランティア活動日及び報告会についても、ヒューマンケア（保健医療福祉）特殊講義Ⅱとして単位認定しています。

また、ケア付き青森ねぶたの主旨に賛同する教職員から募金を集め、総額6,605円を
ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”事務局に届けました。

募金箱設置 期間：平成25年7月4日～8月26日

場所：管理・図書館棟1階 事務室前



ボランティア活動 準備編

5月25日（土）：第1回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成25年5月25日（土）

11時～12時

場 所：B109 教室

参加学生：88名

内 容：講演・体験発表

① 講演

「ボランティアマインドとは」

講師：中村由美子 教授（地域連携・国際センター長）

② 体験発表

発表者：4名（食料班・運行班・設営班）



昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的活動内容等について理解を深めました。

平成25年度 第1回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	31	0	2	0	33
理学療法学科	6	0	0	0	6
社会福祉学科	29	2	0	1	32
栄養学科	15	2	0	0	17
計	81	4	2	1	88

7月20日（土）：第2回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成25年7月20日（土）10時～11時

場 所：B110 教室

テーマ：「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動結果」

講 師：平川 若菜 氏（高齢者総合福祉施設清風荘）他

参加学生：72名



ケア付き青森ねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いを知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲につながりました。また、養成講座終了後、じょっぱり隊参加についてのオリエンテーションを実施しました。

平成25年度 第2回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	24	0	2	0	26
理学療法学科	3	2	0	0	5
社会福祉学科	21	2	0	3	26
栄養学科	15	0	0	0	15
計	63	4	2	3	72

ボランティア募集 6月9日（土）～

第1回ボランティア養成講座実施後にチラシ配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。また、C棟コミュニティセンターに設置している保健大有志が作成した「ねぶた」を管理・図書館棟一階に移し、サインージュやパソコン動画によるケア付き青森ねぶたの紹介とともに雰囲気盛り上げていました。6月23日（日）には、全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教職員会議で参加を呼びかけたり、ケア付きねぶた部会から各学科長を通じてボランティア参加の案内をしました。結果、7月12日（金）のボランティア募集締切り時には、学生約70名、教職員約20名の申し込みがありました。

ボランティアのしおり作成

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月頃から大学独自のボランティアのしおり作成に取り掛かりました。前年度に作成したしおりを元に、実行委員会より報告された変更点や、昨年度の反省を生かし、全体スケジュールや班ごとの心得・動きについて修正・加筆し完成となり、7月20日のオリエンテーションで学生ボランティアに配布しました。

ボランティア オリエンテーション 7月20日（土）

7月20日（土）11時～12時に、B棟1階B110教室で学生ボランティアを対象としたオリエンテーションを行いました。第2回ボランティア養成講座に引き続き実施したのですが、満員だった教室がオリエンテーション開始前には退室者続出で、不安を抱えた状況での開始となりました。ここでは、ボランティアのしおりを全員に配布し、内容について説明するとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。その他、班分け（暫定）の確認や、班ごとの役割の確認、ヤフーメールの使用や大学バス乗車について説明しました。最後に班ごとに分かれ、班の代表者を選出してもらいました。

オリエンテーション欠席者からの届出がなかったことや、その後の対応などが今後の課題です。

ボランティア直前説明会 8月1日(木)・8月2日(金)

今年度は、教職員と学生ボランティアへのオリエンテーションを、日時を変えて別々に実施しました。教職員には8月1日(木)16時～17時に管理等大会議室で行い、学生には前期試験が終了した8月2日(金)10時～12時30分にA棟3階A305教室で行いました。

はじめに、リボウィッツ学長より活動の主旨についての説明と激励のご挨拶を頂き、その後、全体の流れ、バス乗車時間について、また、それぞれの役割および留意点について説明をしました。実行委員会からいただいた“じょっぱり隊ポケットガイド”を教職員ならびに学生ボランティア班代表者と運行班のハネト30名に配布しました。

学生ボランティアのオリエンテーションでは、最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明を行い、その後、班ごとに分かれて打ち合わせを行いました。ボランティア活動を翌日に控え、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネトは車椅子の操作方法についての実演や、大学オリジナル振り付けや隊列について教員から説明を受けて練習をしました。初めてのハネト経験に戸惑う学生もいましたが次第に慣れてきて、全員元気良く、生き生きした表情で練習に取り組んでいました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当する参加者情報を伝えました。このことにより、事前に身体状況や生活状況をアセスメントして当日を迎えることができました。

医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として渡部一郎教授(理学療法学科)、看護師として小池祥太郎助教(看護学科)にご協力いただきました。



定例記者発表 7月24日(水)

本学が開催する定例記者発表で、ケア付き青森ねぶた出陣について記者の方々にPRしました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。

ボランティア 当日編（8月3日）

運行班

日中は、担当する参加者さんとの挨拶からはじまり、その後、食事や行動を共にしながら、おもてなしの心で祭りを安全に楽しむお手伝いをしました。コミュニケーションの難しさや主体的に行動することの重要性を実感できたようです。今年は金魚ねぶたを心を込めて作成し、参加者さんにプレゼントし、とても喜ばれました。

運行班のうちハネトは保健大学学生のための構成です。今年のハネトの特徴は例年に比べて男子学生が多かったこと。そのためか、ハネトは大いに盛り上がりました。振り付けの練習は前日に行っただけでしたが、きちんとそろっていました。途中、急な隊列の変更などがありましたが、最後まで笑顔でがんばりました。また、給水やのぼり担当も全員がゴールまでたどりつき、達成感を得ることができました。



備品班

備品班の最大のイベントは、ねぶた衣装の着替えがスムーズに進むよう、荷物の受け渡しを確実にするということです。参加した学生は、当日朝に備品班リーダーから、受け渡して起こりうるトラブルの説明をきいたり、実際に荷物の受け渡しについてシミュレーションを実施し、準備を整えました。本番は練習通り、備品班ボランティアが前日に準備してくれた参加者名の荷札を確認し、風呂敷に包まれたねぶた衣装を渡し、私服を回収していました。備品班は、進行状況に応じて様々な対応をしなければならず、そのため、待機する時間も多くある中、学生は責任を持って与えられた役割を果たそうと頑張っていました。

着付け班

あらかじめ着付け練習した職員が、学生の着付けを担当しました。職員の大半が着付け未経験者であるにも関わらず、着付け班の皆さんの応援もあって、スムーズに着付けを終えることができました。

食料班

食料班には 10 名の学生が参加しました。カレーを作って盛り付けをしたり、沢山のにおにぎりを握ったり、運行から帰ってきた方の夕飯を盛り付けたりしました。ボランティアとして吉岡美子准教授（栄養学科）も参加されていて、みんなイキイキと、とくに初参加となる 1 年生は戸惑いつつも一生懸命に役割を果たしていました。他のボランティア参加者にも親切に接していただき、ありがとうございました。



設営班

(8月2日) 看護学科女子学生 2 名が午後からボランティアを行いました。設営のボランティアを 4 年間継続して行っていたため、スタッフとの連携もスムーズで、額に汗しながら最後まで笑顔でがんばっていました。主にテントの設営を行いました。参加者さんやご家族の方がねぶたとお食事を楽しめるよう裏方から支えました。

(8月3日) 昼食会場の撤去等から始まり公園へ移動、テント設営・撤去や物品の搬入・搬出等を行いました。保健大グループだけで行動するということなく、すべて順調に行うことができ、問題なく作業を終えることができました。他に、学生 3 名が運行時のメッセージの役割を急遽担うこととなりましたが、無事役割を果たしました。ちなみに、メッセージの役割は、運行に随行し、運行中の緊急用件を走って各部署に伝達するというものでした。きっと、ハネト並みに疲れたのではないのでしょうか。どちらかといえば力仕事要員ですが、怪我等もなく無事に終えることができ良かったと思っております。

医療班

朝に問診および体温、脈拍、血圧などのバイタルサインを測定し、参加者の体調を確認しました。その後、看護師は医療的なケアが必要な方に付き添い、必要時、吸引や経管栄養、食事介助、排泄ケアなどを実施して、ねぶた運行までのイベント中にも参加者さんの体調維持に努めました。医師は午後に参加者一人ひとりを診察し、ねぶた運行に備え、その後出陣となりました。

普段はご家族が行っているケアを担当者が責任をもって行うので、ご家族の中にはビール等のアルコールを楽しむ方もおり、リラックスして過ごされていました。

サークル発表

発表日が前期試験終了直後で練習時間の確保も大変な中、昨年度に引き続き、吹奏楽サークルが発表を引き受けてくれました。参加者やボランティアの皆さんがねぶた衣装に替え、続々と青い森公園に到着した後、出陣までの時間を使って、素敵な演奏を披露して盛り上げてくれました。



ボランティア学生数の推移（人）

	学生	教職員	計
平成 20 年度	49	8	57
平成 21 年度	82	8	90
平成 22 年度	38	16	54
平成 23 年度	72	23	95
平成 24 年度	67	29	96
平成 25 年度	67	32	99

ボランティア活動内容

種類	主な役割
運行班 通称: 熱く燃え隊	ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。
医療班 通称: 命預け隊	事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるように目配りをする役割をします。
ケア班(班担当班) 通称: 仲良くし隊	衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。
食料班 通称: ごちそうし隊	皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。
備品班 通称: なんでも揃え隊	ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。
設営班 通称: 重いもの持ち隊	待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。
着付け班 通称: 上手に着せ隊	参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。

ボランティア活動後 編

活動を振り返る会 8月20日（火）

ケア付き青森ねぶたでのボランティア体験を自分だけのもの納得させてしまうのではなく、そこで生じた疑問やうまくできたこと、できなかったこと、何のためにやっていたのかわからなかったこと、感動したことなど、体験したすべてに対して参加した学生みんなまで共有し、意味づけをすることで今後のボランティア活動を発展させたいというのが本会のねらいです。

昨年度と同様に、夏季休業中の前期試験結果公開日に開催しましたが、実習中や帰省先から戻られない等の欠席があり、67名中17名の参加となりました。会の流れは、まず学長からご挨拶をいただいた後、参加学生をグループに分け、グループ内で意見をまとめて発表するといったものです。グループ編成は、運行班、備品班などの班が偏らないように配置し、5～6人編成3グループとしました。グループワークの視点は、①班別活動と、活動を通して感じたこと、参加者（家族を含む）のねぶた参加の思い、②ボランティア活動としての“じょっぱり隊”について考えたこと（意義、困ったこと、考えられる改善策、他）、③活動を通して学んだこと（ボランティアについて、障害を抱えた人々について、他）とし、75分間のグループワークの後、各グループの発表と意見交換をしました。

発表では、参加者さんへの接し方の反省や笑顔の大切さの気づきから、運営に関する意見にまで内容が及び、今後の活動を進めていく上で充実した会となりました。



【お知らせ】保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義Ⅱ 認定講座
「活動を振り返る会」
 日時：平成25年8月20日（火）午後
 ※ 詳細は近日中に発表します。ぜひ参加してください。



ボランティア募集 7月12日（金）締切

保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義Ⅱ 認定



【ボランティア活動までの流れ（予定）】
 7月20日（土）10：00～ 第2回ボランティア養成講座
 11：00～ オリエンテーション
 8月2日（金）10：00～ 直前説明会

ケア付き青森ねぶた
 じよっぽり隊

八月三日（土）出陣



福井幸子（看護学科） 千葉敦子（看護学科） 橋本淳一（理学療法学科）
 長門五城（理学療法学科） 廣森直子（社会福祉学科） 清水亮（栄養学科）
 花田理江（地域連携推進課）

- ◇申込方法◇ 申込用紙を地域連携推進課まで提出してください。
- ◇お問合せ◇ 地域連携科委員会 ケア付きねぶた部会



報道関係者各位

平成 25 年 7 月 24 日
青森県立保健大学

第 18 回ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 8 月 3 日（土）出陣

I. ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動は、今年度で第 18 回を迎えます。年齢や障害の枠を超え日本の火祭り“青森ねぶた”に誰もが自分らしく祭りを楽しめるように、介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、全国の障害のある方々のねぶたへの参加を支援します。

第 18 回テーマ『友に、共に みんなが主役 みんなが仲間』

※ 保健大学社会福祉学科 2 年 姥名咲月さんのテーマ案が採用されました。

出陣：8 月 3 日（土）

主催：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会

共催：青森県立保健大学

II. ボランティア養成講座

本学では、ケア付き青森ねぶたに参加する学生に、ボランティア養成講座（全 2 回）を受講してもらいます。本講座は保健医療福祉（ヒューマンケア）特殊講義 I の単位認定講座とし、大学をあげてボランティア活動をサポートしています。

ボランティアマインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動となると、少しの勇気ときっかけ、知識が必要です。そのため、ボランティアとは何か、ケア付きねぶたの活動概要・意義やねぶたの文化や伝統などについて学びます。

第 1 回 5 月 25 日（土）、第 2 回 7 月 20 日（土）

III. 本学のボランティア参加者

学生ボランティア 66 名、教職員 22 人、合計 88 名が参加します。この他、学生ボランティアが事故なく活動できるよう教職員 7 名によるプロジェクトを 5 月に発足し、サポートしています。

IV. サークル発表

出陣前の待機時間（17:00～18:00 頃）、青い森公園で、保健大学吹奏楽サークルが演奏します。

V. プライマリーケア

昨年度に引き続き、プライマリーケアを実施します。参加者（障害者）、付添いのご家族、ボランティア経験者、本学学生ボランティア（運行班 30 名）がチームとなり、参加者の情報を共有し、参加者をあらゆる角度から見守ります。

チームは、参加者の到着（10:00）から解散（21:00）まで共に行動します。参加者は様々な疾患があるため、学生ボランティアはあらかじめ参加者の疾患に関する情報を学習して臨みます。

問い合わせ*****

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館町 58-1

TEL:017-765-4085 FAX:017-765-2021

担当：地域連携科委員長 中村 由美子

ケア付きねぶた部会長 福井 幸子

学生の思い・学び

ボランティア申込み時の学生の思い(申込み順)

学 科	学年	コメント
社会福祉	1	今回初めての体験となりますが、ねぶた祭りに出るのがすごく楽しみだったのでワクワクしています。
看護	1	県外出身者で初のねぶた祭りです。参加者と一緒に楽しみ、お祭り、じょっぱり隊を盛り上げたいです。運行班として参加者と直接お話できることが魅力です。以前運行班として参加した先輩の体験談を聞いて、ますます楽しみになりました。参加者と共に喜び、楽しさを共有し盛り上げていきたいです。
看護	1	ボランティアに参加することで、多くの参加者と交流を図る事が出来るし、看護に関わることもたくさん学びたい。他の地域から来る人も多いそうなので、知らなかった地域特有の事も話し合えたらいいなと思います。初めてのねぶた祭りなので、思いっきり楽しみたいです！！
看護	1	入学動機の一つのこのボランティア活動にぜひ参加したい。直接参加者と触れ合いたく運行班希望。県外出身者なので祭り自体楽しみで、跳人で盛り上がりたい。準備等で他の人と協力できるのも魅力。全ての人達と協力して、初参加じょっぱり隊として盛り上げたい。
栄養	1	入学する志望理由の一つとしてケア付きねぶたをあげました。このボランティアに参加することで、様々な人と関わり新しい刺激を受け、今までと違う考え方を身に付けたい。将来病院で勤めたいので、現場で必要とされる実践力を身に付け、将来に活かせる活動にしたい。
理学療法	1	出来たら、運行班としてボランティア活動に携わり、障害者の人と楽しんでがんばりたいと思っています。
看護	1	入学前からじょっぱり隊の活動に興味を持っていました。参加者の人達と一緒に祭りに参加して、ねぶた祭りを楽しみたいです。ねぶた祭り自体参加したことがないのでわからないことだらけですが、先輩や参加者から様々なことを吸収したいです。
看護	1	大学に入学する前からパンフレットでケア付きねぶたの事を知り、私が入学したら必ず参加したいと思っていました。私は北海道出身でねぶたに参加した事はありませんが、参加者の方々と最後まで楽しめるよう頑張りたいと思います。
看護	1	青森県民ながらねぶたを見たことがないので、ケア付きねぶたに参加して下さるたくさんの方々と一緒に楽しみたいです。

学 科	学年	コメント
看護	1	ボランティア活動を通して実際に障がい者と触れ合いコミュニケーション能力を高めたい。参加者が楽しかったと思って頂けるよう頑張りたい。また、色々な班の人達と協力し合い、一つになって楽しみたい。
看護	1	ねぶたを見たことがないので経験してみたい。そしてボランティアにも参加してみたいと思っていたので、じょっぱり隊に参加を決めました。
社会福祉	4	今年で4回目の参加となり学生として最後の参加となるので、これまでの経験を踏まえボランティア、参加者の方々と一緒に楽しみたいと思います。
社会福祉	4	じょっぱり隊の活動の成功に貢献できるよう頑張りたいと思います！！
社会福祉	1	初めての行事ですが、入学する前から興味があり、入学したらぜひ参加したいと思っていました。楽しく盛り上げることを目指したいと思います。
栄養	1	日本三大祭りの一つ、ねぶた祭りを肌で体感しその楽しさを高齢者、障害者の方と共有したいです！！
看護	1	私はねぶた祭を実際に見たことがありません。そこでこのじょっぱり隊に参加することで、最も近い場所でねぶたを楽しみたいと思いました。青森県立保健大学を志望した理由も、じょっぱり隊としてボランティア活動ができると聞いていたからです。入学前からずっとやりたいと思っていたのでぜひ参加したいです。特に、運行班として隊の中心としてねぶた祭を盛り上げたいです。私が運行班を希望する理由は、隊の中心として活動できる点と参加者と一緒にねぶたを楽しめるという点があるからです。私にとって看護師を目指す上での良い経験になるだけでなく、初めてのねぶたをより一層楽しめると思ったからです。
栄養	1	ボランティア活動に参加するにあたり、障がい者と触れ合う機会が作れ、食料班としておいしいご飯を提供することでみんなを笑顔にしたい。
栄養	1	運行班の活動を通して、積極的に参加者の方と交流し、忘れられない良い思い出となるよう手助けしていきたいと思います。また、こういった体験は学校の中ではなかなか出来るものではないので、実際に参加者の方と触れ合い、コミュニケーション能力を高め、自分自身祭りを思いっきり楽しみたいと思います。
看護	4	4年目なので、経験を生かして頑張ります。
社会福祉	1	これまで高校では部活動が忙しく、あまりボランティアには参加できなかったのですが、ケア付きねぶたのボランティアに参加するのがとても楽しみです。一生懸命、裏方として支えていきたいと思っています。
栄養	1	栄養学科として実習前に大量調理の経験をできるということで、多くのことをボランティアを通して学びたい。自分達で作った食事を食べた参加者の笑顔が見たい。

学 科	学年	コメント
看護	2	高校の時からじょっぱり隊に参加したかったので、今年こそはぜひがんばりたいと思っています。去年参加できなかった分参加者の方とお話したり、一緒にねぶたを楽しんだりお手伝いをしたり何でも全力でやりたいです。
栄養	1	人との関わりの中で楽しく活動したい。
社会福祉	1	じょっぱり隊の活動を知る機会があったのですが、じょっぱり隊に参加した人達の生き生きとした姿に感動しました。自分も参加者の力になりたいと考え、ボランティアに参加したいと思いました。また、多くの人達と交流を行うことで自分の成長にもつなげていきたいです。
栄養	1	食料班としてねぶたに参加する方々の支えになりたいです。
栄養	1	今回の食料班の仕事では、自分の作ったものを多くの人に食べてもらえるということで、とても楽しみに思っています。また、車椅子の方々とねぶたという活気あふれる祭りを盛り上げられればと思っています。
大学院	3	昨年は楽しく参加させて頂きました。華やかに舞う「跳人」さん達を陰で支えて参りたいと思います。
社会福祉	4	1年次に参加させて頂いたのですが、2年、3年と実習のため参加できず念願の参加となります。前は運行班として表に出てじょっぱり隊の一員となっていました。今回は裏方にまわって、全員のサポートをしていけたらと考えています。
理学療法	1	気を配りつつも楽しみたい。
理学療法	1	弘前出身で小さい頃からねぶたには触れ合ってきたのですが、ねぶたの方は初めてで貢献できることを楽しみにしています！！
理学療法	2	去年は運行班ハネトとして参加しました。今年も楽しみにしています。参加者さん達と一緒に楽しめたらと思います。去年以上にサポートできたらと思います。よろしくお願いします。
社会福祉	1	私は山形県出身で、一度もねぶた祭りを見たことがありません。テレビで見るねぶた祭りは毎年活気があって楽しそうでした。自分もあの中の一員となってねぶた祭りの成功に貢献したいという気持ちと共に、ボランティアに参加することによって身近にねぶた祭りを感じる事が出来る良い機会だと思い参加させて頂こうと思いました。
社会福祉	1	大学でのボランティアはじょっぱり隊が初めてになるので、ボランティアを意識しつつもねぶた祭りを楽しみたいと思っている。
看護	1	私は札幌出身でねぶた祭りが初めてなので、障害者の方々と思いっきり楽しみたいです。
社会福祉	1	全国的に有名な「ねぶた祭り」にどんな人でも参加できるような手助けができると思いいます。私は青森市出身なので、小さい頃から身近なものでした。その「ねぶた祭り」にボランティアとして参加する事で良い経験が沢山出来ると思いいます。頑張ります。

学 科	学年	コメント
看護	1	初めての活動なので不安がありますが、沢山の人と楽しみたいと思っています。
栄養	1	初めての参加でわからないことばかりですが、自分に出来ることを頑張りたいです。
栄養	1	皆さんが楽しめるようにサポートを頑張りたい。
栄養	1	参加する皆さんに楽しんで貰えるように食事の準備をしたいです。
社会福祉	1	これまでねぶた祭に参加したくてもなかなか参加できずにいて、保健大学のじょっぱり隊の活動を知った時、ボランティアしながらねぶた祭に参加できるなんて素晴らしいと思い、ずっと参加しようと思っていた。参加者も自分自身も楽しめるように精一杯取り組みたいです。
社会福祉	1	いつも部活が忙しく参加できなかったねぶた祭りですが、今回ボランティアということもあって参加したいと思いました。
社会福祉	1	ねぶたを見ること自体が初めてなのでどういった活動になるか予想できませんが、参加する方々が楽しめるよう出来ることを見つけて積極的に動きたいです。
社会福祉	1	積極的に行動して、一生懸命頑張りたいです。
社会福祉	1	初めての参加なので皆さんと一緒にねぶた祭りを楽しみたいと思います！！
社会福祉	1	私の出身は八戸で、青森のねぶたを見たのは幼かった頃なので参加者の方と一緒に楽しみたいと思います。そして、実習に行つて学んだことを実践する機会にしたいと思っています。



第1回ボランティア養成講座参加後の感想一覧

- ・私は保健大学が地域貢献に力をいれているということを知っていました。私もボランティア活動に積極的に参加し、地域に貢献したいと思い保健大学を受験しました。この講座を受講して、ボランティアの基礎知識を学び、コミュニケーションの大切さを改めて実感しました。さらに先輩の体験談を聞くことができ、私も参加してみたいと感じました。ボランティアに参加することで、先輩も話していたのですが、自分の良い点や悪い点があり、良い点はのびし、悪い点は改善できるので、意欲的に参加し、コミュニケーション能力を高め、将来につなげていきたいです。
- ・ボランティアというのは、相手のこともしっかりと考えるということが大切なんだということがわかった。ケア付きねぶたにぜひ参加したいという気持ちがより高まった。
- ・中村先生の話聞き、ボランティアは「してあげる」ものではないものだと改めて理解することができた。昨年ねぶたに参加した先輩の話聞いて、自分も参加したいと強く思った。
- ・「ボランティア」という、普段の生活の中でよく聞く言葉の定義について深く知れたのでボランティアの真の意味がわかった。保健大はいろいろなボランティアを積極的に行っているのも私も参加してみたいです。今度、ボランティアに参加するときは、今日聞いたことを活かしたいです。
- ・保健大学ではケア付きねぶただけではなく、清掃活動などもやっていて、町の活動にたくさん参加しているんだなあと思った。先輩達の意見を聞いて、ケア付きねぶたはとても楽しそうだった。そして、県外の方たちともたくさん交流したいと思った。
- ・ボランティアと一言で言っても様々な種類があり、また、ボランティアを必要としている人の感情なども関係していて、自分のイメージしているものより忙しいし、むずかしいものだなあと感じました。また、人の助けをするのに、「してあげる」とか「してもらおう」等についても知ることができたのでとても良かったと思う。
- ・中村先生がおっしゃっていたように、ボランティアは強制するものではなく、自主的に参加し、自分の経験値を高めるものだと改めて感じました。じょっぱり隊の話も興味を持って聞いたので、参加してみたいと思いました。
- ・東日本大震災のあと、私は大学生になったらボランティアをしたいと考えていました。現場に行けば自分は役に立てると思っていましたが、今日の講座を聴いて自分から何ができるか、相手には何が必要かなど主体的に自発的に考えて行動しなければならないと感じました。大学でも様々なボランティアがあるみたいなので、できるだけ参加したいと思いました。
- ・ボランティアは「何か相手のためにしたい」という気持ちが大切であることを改めて感じた。しかし、自分勝手な思いや相手の気持ちだけを思いすぎてはいけない。相手が本当に必要なことは何か、そして、相手の気持ちだけでなく、相手がいる環境などを考慮しなければならないと思った。気持ちが本当に大切であり、ボランティアの根本であるが、それだけでは相手も満足しないこともあるので、相手をきちんと考えなければならないと感じた。いろいろなボランティアに興味を持ったので、積極的に参加したい。
- ・ボランティアで大切なことの1つに、「表情を豊かにする」というものがあった。確かに、相手が表情豊かだと、話し手は話しやすいと思う。実際に私も相手の表情が硬いと緊張してしまう。このように、自分も楽しみながら相手を楽しませるためにも「表情を豊かにする」事を意識して、ボランティアに参加したいと思う。
- ・ボランティアをすることはあっても、ボランティアについてこんなに考えたり、学んだりすることはな

かなかなかつたので、いい機会になった。ボランティアとしてではなくても、普段からできることをしようと思った。ボランティアを通じて多くのことを学んでいきたい。

・以前一度だけ野田村のボランティアに参加したときは、仮説住宅に住んでいる方々との交流をしたのですが、今自分が何ができるんだろう、今回は自分は何ができたんだろうと思う体験になりました。ボランティアは“自分が何かしよう”という主体性、社会性、無償性、創造性が必要になり、自分の中にわきあがる、“何かしたい、何かできることがあるのでは、この人達を喜ばせたい、苦悩をわかちあいたい”という気持ちが必要なのではないかと思いました。また、その人達のニーズを満たすためには、コミュニケーションを通し、その人達のニーズを知り、一対一の対等な立場からのボランティアの姿勢が必要だと強く思いました。

・私は今までボランティア活動をしたことはあまりなく、ボランティアについてあまり知らなかったのですが、今日改めてボランティアについて知ることができました。ボランティアをすることが私は自分を成長させることができるし、様々な経験ができるので良いと思います。今、私は「めいと」に入り、お話ボランティアに参加しています。これからは、他のボランティアに参加して、もっと自分を高めていきたいです。今日、聞いた話をこれからのボランティア活動に活かしていきたいです。

・自分がそんなつもりはないかもしれないけど知らず知らずに話づらい態度や環境を作ったりしてしまっているかもしれないと感じることが普段からあったので、じょっぱり隊やボランティアを通して知らない人と関わる際の“環境づくり”を学びたいと感じた。確かに初対面で年もそう近くはない人と話を広げたりするのは難しいけど、それを受け入れた上で積極的にやっていきたいと思った。

・ボランティアにはコミュニケーションが大切だということや、双方向に情報が行き来しなければならないと聞いて、授業中の私の態度を反省しました。いつも下を向いていて、ほとんど先生の顔を見ていませんでした。これからは気をつけようと思いました。そして、ねぶたの体験談を聞いて、具体的なイメージができ、興味を持つことができました。ぜひ、参加したいと思います。

・大学生として地域に貢献しようという意識が高まりました。将来は私の住んでいる地域の福祉の発展に貢献できる仕事に就きたいと考えているので、身近なことから、地域のためになる事に取り組んでいきたいと思いました。また、コミュニケーションについても非常に興味深く話しをきくことができました。今日学んだことを普通の生活に取り入れ、周囲と良好なコミュニケーションをとりたいです。

・私は、県外出身なので、単純にねぶたに参加したいと思い、この講座を受けました。去年参加した先輩方の話しを聞いて、参加者の方々とどのようにふれあったかなど、とても良い話しをきけて良かったです。私は、食料班と運行班をどちらにするか悩んでいます。中村先生のボランティアに対する心構えなど、とてもためになる話しをきけて本当に良かったと思いました。

・ボランティアはどちらかと言えば“してあげる”ものだと思っていたが、対等な関係が大切だということを知り、これからボランティアをする上で、気をつけていこうかと思った。ハネトとして運行班に参加したいと思っていたが、今日、体験談を聞いて栄養学科として食料班として活動してみたいと思った。先輩方もじょっぱり隊のボランティアを通して多くの感動、達成感を感じていて、より参加したいという意志が強くなった。

・ボランティアには豊かな表情が必要と聞きました。私は「うれしい」という気持ちを顔に出せません。「うれしい」という表情をボランティア中にする機会はあまりないかもしれませんが、今後のボランティアでは、できるかぎり表情豊かに人と接したいと思います。ボランティアの概念などを聞くことができ、とても良かったです。

第2回ボランティア養成講座参加後の感想一覧

・じょっぱり隊の活動をおおまかにしか知らなかったが、今回の講座を通して全容を知ることができた。協働の合い言葉を糧として辛いことがあっても明るくボランティアに取り組みたい。

・全力で頑張りたいと思います。

・今まで漠然としていたじょっぱり隊のイメージがすこしずつ鮮明になってきた。自分は設営班として参加させていただくわけで、裏方としての仕事だが、ケア付きねぶたを成功させるために精一杯頑張りたいと感じた。また、参加者の方々のエピソード等も紹介していただき、本番への意識が高まった様に感じる。

・身体に障害があっても、普通にイベントに参加できることは、もっと広めるべきことであると思った。ノーマライゼーションの考えを広めて、障害者に対する理解を得ることによって、これから地域で障害者がくらしにいけることにもつながると思います。ボランティアを通して、自分にとって成長になることが多くあると思ったので、しっかりとボランティアに取り組みたいと思う。

ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動をみて、参加者もその家族もボランティアも皆笑顔で楽しそうだなと思いました。ボランティアをする上で大変なことはたくさんあると思うけれど、最後に笑顔で終われるようなそんな活動にしたいと思います。今から、楽しみです。

・今回の講座を通して、ケア付きねぶたでどのような事をやっているかや、心構えがわかりました。ケア付きねぶたには、参加者やつきそいの人が楽しめるように、どの担当の班も重要な役割をもっていることを理解しました。また、チームワークも求められるということも学びました。声かけも明るく大きな声で行うように心掛けたいです。卒業生の話聞いて、来年はぜひ参加しようと思いました。

・毎年ケア付きねぶたを楽しみに参加している人がいると知り、また、ケア付きねぶたを通してリハビリがなされていくということを知り、ケア付きねぶたは参加者を楽しませるというだけでなく、リハビリの効果もあり、参加者の人生を変えるくらいのイベントだと思いました。また、じょっぱり隊だけでなく、全国に「なたきりになら連」があり、年々参加者も増えているということもあり、もっとおおくの人が参加できればと思いました。

・じょっぱり隊の活動内容がよく分かった。参加する方が同じような境遇の方と情報交換を行ったり、リハビリへの希望を持ったり、意欲を持つことができたという話をきいて、とてもすばらしい活動だとも思った。私は食料班として活動する予定なので直接参加者の方と関わることは少ないかもしれないが、笑顔でボランティアに頑張りたいと思った。

・実際にはねたりしてとても楽しかったです。3日に向けてやる気が高まりました。保健大の先輩方も参加するときいてなんだか安心しました。一生懸命頑張りたいと思います。

・実際に声を出しながらはねとをやってみて、とてもしんどいと感じました。これを何時間もやるには、体力がいるし、体をもっと鍛えておこうと思います。

・じょっぱり隊に参加するということは、他のボランティアに比べ、チームワークの大切さや、裏方の必要性・重要性を体感できるすばらしい機会なのだと感じた。じょっぱり隊に参加することで回復する方もいらっしまったみたいなので今年も何か奇跡が起こってくれたらうれしい。

・今回の講座でケア付きねぶたについてよく知れて良かったです。今年初めて参加するので不安もありましたが、とても楽しみです。参加者の皆様と楽しくはねれるよう頑張りたいと思います。

・跳人の衣装や跳ね方を教わり、声出しも体験して、当日のケア付きねぶたが楽しみになってきました。前日での活動では、振り付けを覚えたり、参加者の人達を迎えるために様々な準備もすることになると思いますが、この夏一番の思い出にしてもらえるためにも、精一杯サポートしたいと思います。最後まで、

参加者の方達と共に笑顔で盛り上げていきたいと思います。

・ねぶた祭りをみたこともなく、とても不安に感じていましたが、お話をきいて、ケア付きねぶたに参加した人にしか分からない感動や経験を得ることができると分かったので、やはり参加しようと決意して良かったと思いました。皆で協力し素晴らしいものを作り上げたいです。

・ボランティアは様々なことに気をつけ、相手のことを心から思いやり行うことが大事だと思った。自分が楽しむのはもちろんだけど参加者の方を楽しませることも1番に考えて動きたいと思う。積極的な姿勢、声かけを忘れず自ら進んで学ぶ姿勢を忘れず行いたい。ボランティアする側、される側という意識を持たず相手にも持たせず、お互いに楽しめる1日にしたい。

・医療分野に関わる者として、このボランティアを通して参加する方々の力になりたいと思った。この経験は、将来でも今後とても役立つことだと思う。自分が参加者のためにながができるのかまだわからないけれど、このボランティアに参加することで保健・医療自分の将来に対しての考え方も良い意味で変化すると思う。何事も経験なので、自分も一緒に思う存分楽しみたい。

・実際の活動の写真やお話を聞き、とても楽しみにになりました。先輩達のパワフルなねぶたを診て、私も参加者の皆さんを楽しませたい！と感じました。これから頑張りたいです。



活動を振り返る会 各班発表内容

【1班】鈴木麻衣、高橋亜希、畑山智嘉子、高橋伊央奈、荒澤隼、鹿内創太

備品班では、荷物の管理や、荷物受渡しの際の人数の多さから指示が伝わるよう声を張るのが大変でした。リピーターの参加者は楽しさを理解していましたが、初参加で遠出してきている参加者は、楽しみにしているものの、どこまで任せていいのか等の不安もあったようでした。運行班は、参加者を楽しませること、ボランティア同士の盛り上げや橋渡しが大切と感じました。食料班は、スムーズに動くことが求められました。運行班では、参加者と一緒に昼食を食べるための席がなかったり、一緒に食べられない人もいて、席は決めておいた方がよいと思いました。ネームをつけていない参加者もいて、誰かわからないこともあり、自分で参加者を把握することが必要だと思いました。金魚ねぶた作成の人手が足りずにヘルプに行った結果、参加者との交流時間が減ったことが残念でした。裏方の人は参加者と交流がまったくなかったため、もう少し交流の場が欲しいと思いました。人手が足りない、変更点の事前連絡に係る戸惑いを軽減するためにも、2日と4日も活動はあった方がよいのではないかと思います。自分の判断で勝手に動かず、明確な指示を仰ぐことが大切だと思いました。参加者とのコミュニケーションは、常に愛想よく、反応を確かめることが必要です。何でもフォローするのではなく、参加者に楽しんでもらう心構えが大事だと思いました。

【2班】工藤頌子、船橋萌、森山麿理子、杉村琴美、加藤友希、佐藤雅昭

じょっぱり隊での出会いや再会を楽しみにしている人や、参加するところがリハビリの糧になっている人もいたり、食事を楽しみにしている人も多くいました。バイキング形式の食事で、ボランティアが参加者の分を持って行きましたが、種類が多くて、参加者の食べられるものや量がわかりませんでした。料理はテーブル毎に置く形式の方が、より参加者の好きなものを食べられるのではと思いました。着付けで時間がかかってしまいましたが、着る人によってタスキの位置も異なることを知らない着付班の方もいたので、あらかじめ把握することでスムーズにいくのではと思いました。待機時間で疲れた参加者も多く、サークル発表を増やしてもいいのではと思いました。カラスハネトが入ってきてしまい、参加者のすぐ近くまで来て怖い思いをしました。隊列をガードするのぼり隊がいなくてから侵入されたため、隊列を検討する必要があると思いました。部外者が給水を利用する例もあり、給水の後ろがつかえ、車いすどうしがぶつかる危険性もありました。わからないことは確認する、様々な人とのコミュニケーションをとる方法を学びました。

【3班】安藤悠、高木優華、堀内露、大友良明、成田都和

設営班はほぼ裏方で、仕事が少ないと感じました。備品班は、走り回った印象が強いです。運行班は参加者との交流も楽しみの1つでした。空き時間を活用し、参加者と交流したいと思いました。着替え場所はもう少し明るくてもよいと思った他、トイレが混雑していて参加者も大変だったと思います。余っても平気なものを食事として提供した

方がよいのではないかと思いました。参加者と家族の着替に関して、着付班の人数を増やした方がよいと思いました。金魚ねぶたは壊れやすいので、ホテルに帰ってから渡した方がよいのではないかと思いました。参加者からねぶたについて質問が多かったので（東北のまつり含む）、パンフレットなどで予備知識がつけるとよいと思いました。付き添いさんが参加者さんの身の回りのことを全てやっていたので、自分が何をすればよいのか戸惑った時がありました。会話の内容に困ったので、コミュニケーション力が大切だと思いました。続けることでしか得られないものもあるので、ボランティアは継続して行くべきだと思いました。



全体スケジュール

事前説明会

- 1 回目
 - 日時：7月20日(土) 11:00~12:00
 - 場所：B110 教室
 - 内容：ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動の概要説明
暫定班の紹介、代表学生の選出
- 2 回目
 - 日時：8月2日(金) 10:00~12:00
 - 場所：A305 教室、フジカールーム (A305 教室隣り)
 - 内容：T シャツ・シール配布
班の紹介
活動の最終確認
(運行班はフジカールームでネットの振り付け練習)

- ・学生ボランティアは全員参加してください。
- ・事前にごしおりをよく読み、質問などはこの説明会のときにごください。
- ・**フライデーケアの担当者を発表します。参加者の情報を伝えますので、各自、筆記用具、メモ用紙を持参してください。**

ねぶた出陣

- 8月3日(土) ... 2 ページ
(場合によっては8月2日午後ボランティアをお願いすることがあるかもしれません。)

活動を振り返る会

- 日時：8月20日(火) 13:00~16:00 ... 19 ページ
場所：A棟1階A112教室

青森県立保健大学
学生ボランティアのしおり

目次

全体スケジュール 1 ページ
 ねぶた出陣(8月3日)のスケジュールと内容 2 ページ
 ボランティア留意事項 5 ページ
 ボランティアの心得【共通】 6 ページ
 ボランティアの心得【備品班】 7 ページ
 ボランティアの心得【運行班】 8 ページ
 ねぶた運行コース・車いすトイレマップ 9 ページ
 ボランティアの心得【設営班】 11 ページ
 ボランティアの心得【食料班】 12 ページ
 保健大学オリジナルハルネット振付 13 ページ
 緊急時の連絡先 15 ページ
 活動を振り返る会の案内 16 ページ

4. 決起大会

- ・次の時間帯は全員参加です。ただし、各班のリーダーから指示があった場合はそれに従ってください。

9 : 30	ボランテア決起大会 (4 F 県民ホール)
10 : 45	アトラクション (同)
11 : 00	結団式 (同)

5. 休憩 (食事)

- ・食事や休憩時間は、タイムスケジュールを参照して各自とってください。ただし、食事や休憩に入るときは、必ず代表学生を通じてリーダーに確認をとってください。
- ・お昼は、**4階県民ホール入口でカレーライス**が提供されます。各自受け取って、交流会会場 (4階大中研修室) 以外の場所でお食べください。

6. 青い森公園へ移動

- ・県民福祉プラザから青い森公園に移動する際は、各班のリーダーの指示に従ってください。
- ・県民福祉プラザへは戻らないので、自分の荷物をすべて持って移動してください。絶対に忘れ物が無いようにしてください。

7. 解散

- ・各班がリーダーの指示により解散したら、各班の担当教員のもとに集合してください。各班が解散しても、勝手に帰らないでください。担当教員が人数確認をします。
- ・モーリーとリン GO、つゆき号で大学に戻ります。青い森公園から自分で帰りたい人は、このとき担当教員に申し出てください。
- ・バスは青い森公園東側 (日本赤十字青森県支部付近) に停車しています。事務局花田さんの確認を受けた人から順に乗車してください。
バス出発時刻 21:00、21:30、22:00
※ 各自の乗車時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照
- ・大学に到着したら、担当教員の指示により解散となります。

<服装・持ち物>

- 服装
- ・上は、大学Tシャツを着用してください (現地で着替えない)。下はズボンを着用してください。
- ・ソックス、スニーカーを履いてくる。
- ・雨天の場合は、雨がっぱなどを各自で用意する。

ねぶた出陣のスケジュールと内容

日時：8月3日 (土)

1. 集合時間

- ・モーリーとリン GO、つゆき号、タクシーで移動します。
次の時間どおりに集合してください。
- 集合場所：管理棟正面
- バス出発時刻：8:00、8:30
※ 各自の集合時刻は、別配布「バス乗車等確認表」を参照
- ・モーリーとリン GO、つゆき号、タクシーを使用しない場合は、前日までに各班の担当教員または福井先生、事務局花田さんに連絡してください。
- ・当日になって使用しないことになった場合は、出発の時刻前まで「緊急時等の連絡先」(15ページ)へ連絡してください。
- ・定刻で出発しますので、遅れることはないようにしてください。

2. 福祉プラザに到着したら

- ・1階ロビーで待機してください。別業務の方や来訪者がいるので、私語は控えるようにしてください。
- ・担当教員が出欠確認をします。
担当教員 食料班 清水先生
 設営班 長門先生
 備品班 廣森先生、橋本先生
 運行班 (全体) 福井先生、千葉先生、事務局花田さん
- ・全員そろったら、担当教員と一緒に各班の集合場所へ向かいます。

3. 各班での活動

- ・各自、各班心得、タイムスケジュールを確認して動いてください。ただし、タイムスケジュールはあくまでも目安です。実際の行動は、各班のリーダーに従ってください。
- ・各班の代表学生は、各班のリーダーと学生ボランティアの間で連絡のやりとりをしてください。学生ボランティアは、確認したいこと、指示を仰ぎたいことがあれば、代表学生に伝え、代表学生は、まとめてリーダーに確認してください。

	リーダー	代表学生
食料班	田中 麻美さん	
設営班	山口 真弥さん	
備品班	久慈 武司さん	
運行班	田中 教雄さん	

ボランティア留意事項

☆ 初対面の合言葉

声高らかに、お願いします。
「ようこそ（青森へ）、ようこそ（じょうばり隊へ）」おもてなしの心をこめて

☆ 協働の合言葉

上手くできたら、「じょうばりだからね」、失敗した時にこそ、「じょうばりだね」、と声に出してみてください。

◆ 準備を重ねてきましたが、予定変更や、ハプニングは、このようなイベントにつきものです。

また情報が伝わらず、思うような活動を出来ないで立ち止まっている方もいるかもしれません。
真剣であればあるほど、『怒り心頭に発する』場合もあるでしょう。でも、せっかくの出会いを大切に、例え怒りであってもそのエネルギーは、活動のために向けて欲しいもの。そこで何かトラブル起きたときの合言葉、『じょうばりだからね』をご紹介します。声に出して言いながら、ストレスもわかまらざらと流して、前進してください。有終完美（終わりはればすべてよし）を目指し、不具合があつたにしても、『じょうばりだからね』で、お願いします。

最高のおもてなし、それは、
ボランティアの調和、
皆さんの笑顔、なので

ハネットの皆様へ

運行時は常に＜参加者＞＜付添＞＜ハネット＞3人一組で行動します。ハネットの役割は次の通りです。

1	参加者、付添者（家族）の中には、県外の方もいます。場所や方言等に不便を感じている時は、丁寧に説明し、誘導しましょう。
2	付添いの方がトイレや着替え等で、参加者から離れる時、しっかり交替しサポートしましょう。
3	ねがいの衣装を身につけ、「じょうばり隊」オリジナルの振り付けで、運行を盛り上げましょう。
4	参加者の皆様は、ねがいに参加することを楽しみにしています。青森の魅力を沢山紹介し、青森を誇りにしてください。

1. ボランティア自身の健康管理が大切です。自己管理ですが、早め早めに、対処して欲しいものです。

- ・体調不良時は自分で医療所に申し出る
- ・事務所に相談し、体感が早速を決める

2. ケア付じょうばり隊では、多くの関係者の期待を背負いながら活動しています。多くの支援者の期待と、そして信用を損ねない活動姿勢が重要です。夜運の活動でもあり、祭りという非日常の雰囲気について飲み込まれてしまいがちですが、しっかりと気持ちを引き締めて、お願いいたします。

- ・注意が重要な行動を自分で考えてみよう
- 3. 総勢 250人、この事業を行います。

時間の制約もあり、班ごとの活動はしますが、総合力が問われます。気持ちよく仕上げるコツは、「互いに相談、きちんと連絡、しっかりと報告」です。さらに、ボランティアの真髄は、主体性、自主性です。さらに、「～の仕事が終わりまし。次は何です」と声をかけてください。これは基本の手ですが、心がけないと、できない事でもあります。ケアの基本は、相手の方をよく見ること、コミュニケーションのコツは笑顔、皆さんの一人一人の手と心がけで、この活動をより良くなってください。

相談事について

いつでも、どのようなことでも、疑問、不安に感じたら、担当ボランティアのリーダーや教員に聞いてください。やむを得ず参加できなくなった場合は、速やかに「緊急時等の連絡先」に連絡してください。

- 持ち物
 - ・貴重品の管理は各自で行ってください。大金を持ってこない。運行班は浴衣に着替えるので、ボロ一手などを持参して各自で貴重品管理をしてください。

<その他>

- 体調管理
 - ・体調が悪くつたら、早めに担当教員に申し出てください。
- 緊急連絡
 - ・体調不良以外にも、困ったことや、わからないことがあれば、担当教員に確認、報告等してください。
- ねがいの終了後、参加者とその家族への対応
 - 場合によって、参加者や家族の方からの手紙が届く場合があります。その際にはきちんとお返事を出すようにしましょう。

保健大ボランティア 共通心得！

その1	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 言葉 トラブルがあっても … 「じよぼりだものね」 良いことがあれば … 「じよぼりだからね」
その2	8月3日の集合場所においている県民福祉プラザには、シャトルバス、若しくは公共機関を利用し、自家用車、自転車は避けてください。駐車（輪）のお世話は出来ません（解散場所は県民福祉プラザではなく、青い森公園です。）
その3	一人で解決しようと思わず、迷ったらじよぼり隊の T シャツを着ているボランティアスタッフに相談しましょう。変更事項が常にあります。何時の時点の指示が確認しましょう。
その4	運行班になっている方は、ソックス・スニーカーをはいてきてください（本来なら草履ですが、安全と動きやすさを考慮して）
その5	携帯電話が雨に濡れて壊れないように、ジップロックなどの入れ物に入れるなど工夫しましょう。
その6	貴重品の管理は各自で！大金を持ってこない。食事や飲み物は会場に出ます。
その7	所持品の保管は自己責任です。大事なものは持ってこない。また所持品は記名をすること（着替えがあるので、身に着けるものは、ウエストポーチなどを活用のこと）
その8	体調不良の際には、教員に申し出てください。
その9	ボランティア活動時は、ボランティアであることを心がけましょう。活動時の携帯電話の使用は控えてください。

* 昼食は、4階県民ホール入り口で提供されたカレーを持参し、交流会場（4階大中研修室）以外の場所で行います。ホールやテラスを利用して食事をしてください。

備品班 心得！

集合場所 4階工ノベーター降りて右手の小研修室

備品班は、ボランティアの方との協力を心がけて、スムーズに荷物の整えや着付けができるように声をかけあってください。	
その1	荷物は最小限度にして下さい。持ちながらの作業はできません。
その2	集合場所ではリーダーが受付し、備品班当日の動きを確認します。
その3	それぞれに役割がありますので、体調不良時は、無理をせずに早めにリーダーへの報告をお願いします。
その4	行動するときには、どこに行くのか、伝達し、勝手な行動は控えてください。所在が確認できないときは、あなたを探ることになります。
その5	わからないときは、自分の判断で行動や回答をせずに、すぐにリーダーへ連絡してください。リーダーに連絡がつかない時は、山口さんへ連絡してください。
その6	14時からの着付けの際、着物の不備や質問等わからない時は、その場を離れず、後回しにせず、すぐにリーダーに連絡してください。
その7	「荷物がなくなった」等の声が聞かれた時は、一人で行動せずに、そのことを言いに来た方の名前を聞き、その場でリーダーに連絡ください。リーダーがその場に行って対応します。

★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 出陣前後の浴衣と私服の受け渡しでは混み合っており、落着いて相手の名前を確認して確実に受け渡しましょう。
- ◆ ねぶた終了後、運行班のみみなさんが浴衣をランドリバッグに入れますが、携帯電話や貴重品の所持品を入れないよう呼びかけるとともに確認しましょう。
- ◆ 他ボランティアから荷物の移動を指示されることもあり、不明な場合は場所を確認してから指示を受けましょう。

ケア付き青森ねぶた“じわっぴ隊”

運 行 班 心 得 !

集 合 場 所

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。	
その 1	怪我等には十分注意を。もし怪我・体調不良・事故等の場合にはリーダーへ連絡をお願いいたします。
その 2	所持品等については自己管理でお願いいたします。
その 3	車でお越しの方は県庁第 2 駐車場への駐車をお願いします。(学生は駐車しない)
その 4	8 月 3 日は解散時刻を 22 時頃に予定しています。やむを得ず早く帰宅する場合には教員に連絡をお願いします。
その 5	天候等の状況によってスケジュール等が変更になる場合があります。その際には随時連絡します。

* 退陣後、速やかに県庁北棟 5 階会議室 A・B で着替えをし、その後打ち上げに参加してください。

* 衣装については伝統的な着付けを行います。着付け班の指示に従って着用してください。(お腰の丈が長いことは了解してください)

★ 本学学生ボランティアへの伝達事項 ★ ハネトグループ

- ◆ 着替えは 12 時頃を予定しています。その前に屋食を終えるようにしよう。
- ◆ 服装は、履きなれた運動靴とタンクトップの着用 (着替えが楽にでき、汗を吸い取ってくれます)をお勧めします。
- ◆ 運行班だけ浴衣に着替えます。脱いだ洋服、貴重品以外の荷物は備品班に預けることになるので、大きい荷物などを持ち込まないようにください。
- ◆ 着替えは、教員の指導を受けながら各自で行います (着替え場所：女子 4 階県民ホールステージ、男子ステージ下巻席)。着付け終了後、着付け班ボランティアに最終確

認していただけます。

- ◆ 13：00 までには着替えを終了するよう、きばきと動きましょう。
- ◆ 浴衣に着替えたら、モリーのリミネートシートに貼ってください。
- ※ プライマリーケアを担当する学生は、参加者を一人にしないようタイミングを見て着替えに行ってください。近のボランティアに必ず声掛けてから離れましょう。
- ◆ 花笠は、青い森公園に移動したら備品班から受け取ります。
- ◆ 振付は元気よく笑顔でがんばりましょう。また、隊列は「常に美しく」を心掛けましょう。
- ◆ 運行中は緊急の場合を除き隊列を離れることができません。体調を整えて臨みましょう。また水分をこまめにとりましょう。
- ◆ 運行中やその前後も参加者の方を一人にしないよう十分注意しましょう。持ち場を離れる時は付添さん等に一声かけてください。
- ◆ 退陣後は、すぐに着替えに入るのでなく、参加者が一人にしないことを参加者と付添に確認してから着替え場所に移動しましょう。そのまま入浴場所に移動する参加者もいるので、お別れの挨拶のタイミングを迷さないように動きましょう。
- ◆ 退陣後、花笠を青い森公園の回収場所に各自戻してください。
- ◆ 県庁北棟 5 階、会議室 A・B に行き、自分の荷物を受け取って着替えをしてください (状況に応じて変更になる場合があります。指示のもと臨機応変に行動してください)。
- ※ プライマリーケアを担当する学生の着替えが優先です。追って参加者が退陣してくるので、急いで着替えて青い森公園に戻り、担当の参加者についてください。
- ◆ 脱いだ衣装は、1 階ロビーに待機している備品班に返却しますが、その際乳物が混じっていないか確認してください。

のぼりグループ

- ◆ 着替えの時間や場所はハネトグループと同様ですが、浴衣は、はっぴとなりです。
- ◆ 運行中、緊急事態やトイレ移動時は、〇〇の指示のもと、のぼりを持って隊列から抜けず、抜けた後の行動は〇〇の指示を受けてください。

クア付き青森ねぶた「よはの隊」

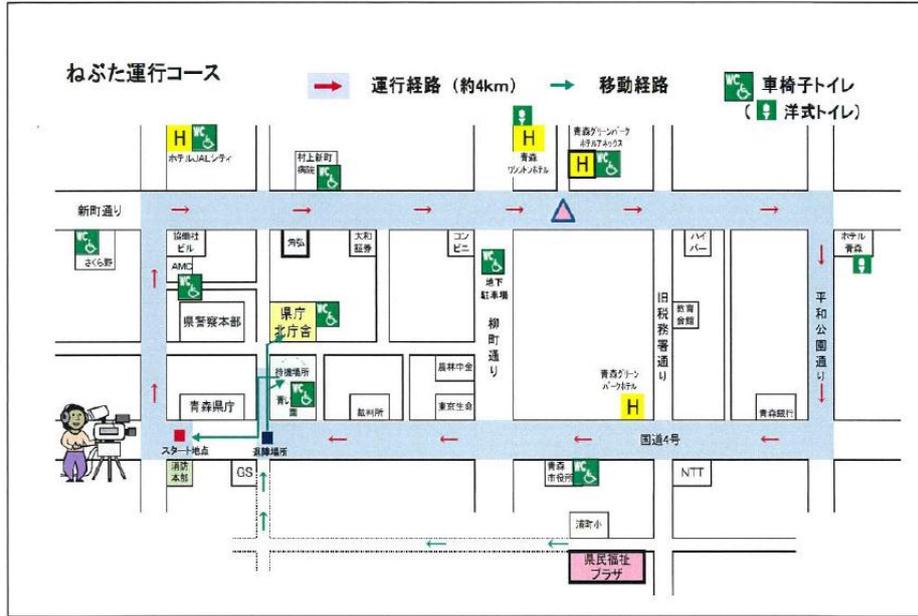
設営班 心得！

集合場所 8月2日： 8月3日：4F 大中研修室

	わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。
その1	怪我等には十分注意を。もし、怪我・体調不良・事故等の場合には、リーダーへ連絡をお願いいたします。
その2	所持品等については自己管理をお願い致します。
その3	8月2日・3日ともに車でお越しの方は県庁第2駐車場への駐車をお願いいたします。(学生は駐車しない)
その4	8月3日解散予定時刻が22時頃を予定しております。ご都合等ある場合にはその前に帰宅しても構いません。帰宅前にリーダーへの声かけ、連絡をお願いいたします。
その5	天候等の状況によってスケジュールの変更があるため、変更があった場合には随時、連絡を行いますので宜しくお願いいたします。
その6	8月3日 交流会から着替えセッティングでの注意事項 大中研修室の仕切りは管理室職員が行います。

★本学学生ボランティアへの伝達事項★

- ◆ 物品の移動・運搬やテント設営などの力仕事が多いため、体調を整えて臨んでください。
- ◆ 服装は動きやすいもので構いませんが、膝をつく姿勢をとることも多いため、膝を保護できる服装が望ましいです。また、軍手を準備しておくとう便利です。



参加者一覧

運行班(付き添いグループ)			備品班		
1	保健大学	リポウィッツよし子	49	荒澤 隼 (リ-ダ-)	
2	保健大学	成田正行	50	工藤 頌子	
3	保健大学	ロバート リポウィッツ	51	沓澤 茉貴	
4	付添27	森山 磨理子	52	越崎 灯	
5	ハネト1	鈴木 雄大	53	工藤 菜々実	
6	ハネト2	木村 鈴菜	54	佐久間 涼花	
7	ハネト3	宮内 美帆	55	安藤 悠	
8	ハネト4	広瀬 有紀	56	沼田 祐子	
9	ハネト5	香川 愛	57	中村 由美子	
10	ハネト6	佐藤 雅昭	58	工藤 理穂	
11	ハネト7	小松 玲奈	着付け班		
12	ハネト8	野月 綾乃	59	大里 美佐子	
13	ハネト9	畑山 智嘉子	食料班		
14	ハネト10	袴田 絵理花	60	佐々木 捺未(リ-ダ-)	
15	ハネト11	福士 さとり	61	松田 成美	
16	ハネト12	奈良 直紀	62	吉岡 美子	
17	ハネト13	鈴木 麻衣	63	高橋 亜希	
18	ハネト14	杉村 琴美(リ-ダ-)	64	松岡 七星	
19	ハネト15	信太 美咲	65	渡辺 ゆか	
20	ハネト16	成田 都和	66	畠山 日菜子	
21	ハネト17	佐藤 勝哉	67	土門 操	
22	ハネト18	高木 優華	68	石川 真利亜	
23	ハネト19	丸山 紗代子	69	堀越 春香	
24	ハネト20	高橋 伊央奈	70	船橋 萌	
25	ハネト21	加藤 友希	設営班		
26	ハネト22	堀内 露	71	大友 良明(リ-ダ-)	
27	ハネト23	及川 由貴	72	鹿内 創太	
28	ハネト24	鹿内 創太	73	斉藤 真郷	
29	ハネト25	田島 雅大	74	村上 祐一郎	
30	ハネト26	野本 史佳	75	田島 雅大	
31	ハネト27	種市 孝司	76	狩野 貴昭	
32	ハネト28	根本 彩優心	77	大程 慎太郎	
33	ハネト29	桜井 未紅	78	瓜田 学	
34	ハネト30	松島 穂菜美	79	石岡 繭子	
のぼり・大うちわ・ 拡声器・給水グループ			80	坪 歩	
35	のぼり2	大関 優作	81	遠藤 友代	
36	のぼり3	篠原 直斗	82	佐々木 侑子	
37	のぼり4	高谷 憲	83	千葉 弘美	
38	のぼり5	バリー カヴァナ	医療班		
39	のぼり6	鈴木 孝夫	84	渡部 一郎	
40	のぼり8	工藤 透	85	小池祥太郎	
41	のぼり9	笠原 達矢	部会委員		
42	のぼり10	吉田 貢	86	千葉敦子	
43	大うちわ1	寺田 泰二	87	福井幸子	
44	大うちわ2	藤田 修三	88	橋本淳一	
45	拡声器2	青木 明菜	89	長門五城	
46	給水車	渡部 朋子	90	廣森直子	
47	給水車	本間 ともみ	91	清水亮	
48	給水車	上泉 和子	92	花田理江	
			清風荘実習生		
				三浦 美樹	
				藤田 志帆	
				藤原 唯	
				杉山 智香	
				飯田 星	
			その他		
				蛭名 咲月(結団式)	
				吹奏楽サークル(9人)	

ケア付きねぶた部会の活動概要

5月13日(月) 10時～12時	第1回部会会議開催
6月7日(金) 15時～16時50分	第2回部会会議開催
7月5日(金) 17時15分～19時15分	第3回部会会議開催
7月16日(火) 10時～11時30分	第4回部会会議開催
7月31日(水) 16時30分～18時25分	第5回部会会議開催
8月7日(水) 9時～10時15分	第6回部会会議開催
10月7日(月) 10時～	第7回部会会議開催

① オリエンテーションの実施

7月20日(土) 11時から、ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配布・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。

② 事前説明会の実施

8月1日(木) 16時から教職員対象、8月2日(金) 10時からボランティア参加学生を対象とした事前説明会を開催しました。学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けたり、教職員には当日スケジュール等について説明しました。

③ しおりの作成

学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を収めました。

④ バスの手配

ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバス、タクシーを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。

⑤ ボランティア募集

6月から7月までの間で、ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。

⑥ 部会委員の参加

部会委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班に部会委員が配置することで、万一のときの連絡体制がとてもスムーズでした。

⑦ ボランティア養成講座の実施

5月25日(土)に第1回ボランティア養成講座、7月20日(土)に第2回ボランティア養成講座を開催しました。

⑧ サークル発表の調整

本学の文化系サークルに声掛けして、発表してもらうサークルの調整を行いました。

⑨ 学生の識別

活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルTシャツ、防水加工したステッカーを作成、配布しました。学生リーダーや本学役職者のシールを色別に分けました。

⑩ 医師・看護師の派遣

実行委員会からの要請により、医師1名、看護師1名を派遣しました。

⑪ プライマリー・ケア担当学生

実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。

⑫ カメラマン

本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。

⑬ 活動を振り返る会

8月20日（火）に、活動を振り返る会（報告会）を開催しました。



平成 25 年度

地域連携科委員会部会 ケア付きねぶた部会

看護学科 准教授 千葉 敦子

准教授 福井 幸子

理学療法学科 助 教 長門 五城

助 教 橋本 淳一

社会福祉学科 助 教 廣森 直子

栄養学科 講 師 清水 亮

事務局

地域連携推進課 総括担当 工藤 透

主 事 花田 理江



発行：ケア付きねぶた部会

平成 25 年 10 月